



写真データあり

令和7年1月14日
(芸能記者へ同日提供)

市政記者クラブ 様

観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化芸術推進課
担当：谷、中村 電話 972-3171
〔照会先〕(公財)名古屋市文化振興事業団事業部事業推進課
担当：奥田、北山、清水 電話 249-9385

名古屋市民芸術祭 2024

名古屋市民芸術祭賞及び名古屋市民芸術祭特別賞の受賞公演を決定しました

令和6年10月から11月にかけて開催しました、名古屋市民芸術祭2024参加公演の中から、名古屋市民芸術祭賞及び名古屋市民芸術祭特別賞の受賞公演を下記のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

また、授賞式を執り行いますので、取材していただきますようお願い申し上げます。

記

1 受賞公演

(1) 名古屋市民芸術祭賞（表彰楯及び副賞 25 万円）

部 門	公 演 名
音 楽	金原聡子 ソプラノリサイタル ～乙女たちの願い～

※選定理由等は別紙をご参照ください。

(2) 名古屋市民芸術祭特別賞（表彰楯及び副賞 10 万円）

部 門	賞のタイトル	公 演 名
音 楽	和洋折衷エンタメ賞	OpeRaku 落語オペラ「まんじゅう怖い」・「転失気」
演 劇	精励賞	なごや芝居の広場公演 「楽屋 一流れ去るものはやがてなつかしき」
伝統芸能	名古屋伝承普及賞	絃衣の会 佐藤亜衣 箏・三絃リサイタル 古典をみつめてⅡ～名古屋の遺徳～
伝統芸能	技芸継承賞	公益財団法人能姫町財団 第二回 若獅子能

※選定理由等は別紙をご参照ください。

2 授賞式

- (1) 日 時 令和7年1月31日(金) 午後1時30分～
- (2) 場 所 名古屋市公館 レセプションホール
- (3) そ の 他 令和6年度名古屋市芸術賞授賞式と合同で行います。

名古屋市民芸術祭 2024

名古屋市民芸術祭賞及び名古屋市民芸術祭特別賞

名古屋市民芸術祭賞（1 公演）

【音楽部門】

金原聡子 ソプラノリサイタル ～乙女たちの願い～

10 月 1 日 (火) 18 : 45

電気文化会館ザ・コンサートホール

<選定理由>

前半のリートでは、ミニヨンの詩に作曲した各国の作曲家のリートを歌うというコンセプトが明確で、曲に込められた想いを見事に表現した。後半のオペラアリアでは、明るく柔らかな透明感のある声質と、優れた高音域のコントロールで、時にパワフルに歌い上げるなど、表情豊かで聴き手を魅了する演奏だった。歌唱を深く理解するピアノ伴奏も好演で、準備、研究が花開いた素晴らしいリサイタルだった。



名古屋市民芸術祭特別賞（4公演）

【音楽部門】（和洋折衷エンタメ賞）

OpeRaku 落語オペラ「まんじゅう怖い」・「転失気」

10月19日（土）11:00・14:00

北文化小劇場

＜選定理由＞

落語とオペラの和洋を融合させ、子どもから大人まで世代を超えて楽しむことができるユーモア溢れるエンターテインメント作品に昇華した。配布物に漫画であらすじを掲載するなど、とにかく観客に楽しんでもらいたいという姿勢も功を奏し、会場が笑いに包まれた。作曲、音楽監督・指揮、台本、演出、出演と、全て地元発の見応えのある創作作品として、再演を重ね、より多くの世代に鑑賞されることを期待する。



【演劇部門】（精励賞）

なごや芝居の広場公演

「楽屋 一流れ去るものはやがてなつかしき」

10月26日（土）14:00・18:30

10月27日（日）11:00・14:00

千種文化小劇場

＜選定理由＞

長年、名古屋の演劇界を支えてきたベテラン俳優陣が、それぞれの役柄に真摯に臨み、安定の出来栄をみせる舞台だった。全国で上演される機会の多いチェーホフ作品に、敢えて真向からチャレンジする姿勢は評価に値する。一方で、円形劇場で上演することで試される空間の使い方や舞台セットの配置などには十分な工夫が見られず、今後の丁寧な舞台づくりに期待したい。



【伝統芸能部門】（名古屋伝承普及賞）

絃衣の会

佐藤亜衣 箏・三絃リサイタル

古典をみつめてⅡ～名古屋の遺徳～

11月14日(木)18:45

電気文化会館ザ・コンサートホール

＜選定理由＞

名古屋独自の組歌や曲を披露するというテーマが明確で、わかりやすい構成だった。また、箏、三絃、尺八による「尾上の松」は、見事な技巧で聴きごたえのある演奏だった。さらに、司会による解説やパンフレットが充実しており、伝統芸能を聴衆に丁寧に伝えようとする姿勢には好感が持てた。一方で、合奏での息の合わせ方などを課題として、一層精進し、感動を呼ぶ演奏への飛躍を期待したい。



【伝統芸能部門】（技芸継承賞）

公益財団法人能姫町財団

第二回 若獅子能

11月30日(土)12:30

名古屋能楽堂

＜選定理由＞

観世流の優美で洗練された型を、今後の名古屋の能楽界を牽引する若手能楽師たちが堅固に守り継ぐという姿勢が強く伝わる公演だった。能、仕舞、狂言が互いを刺激し合うことで生まれた緊張感が本公演を芸術性の高い舞台に昇華し、観客を魅了した。一方で、理解の手がかりとなる事前解説やパンフレットを用意するなど、伝統芸能の普及に不可欠な若者世代が気軽に触れられる取り組みにも期待したい。

